

この人に聞く：2

そろそろ、灌漑溝の草刈りも辛くなってきたよ・・・

【亀田満吉さん、トミ子さんご夫妻（ニセコ町有島在住）】第1回目（2014年）

聞き手：梅田滋、伊藤大介、行方洋子

「飲んで帰れなくなったら、俺んどこに泊まったらいい。布団はあるぞ」
3年前、有島灌漑溝の草刈りに初めて参加し、作業が終わって謝恩会館で打ち上げをしたときに、初対面の私にそう言ってビールを勧めてくれたのが、亀田満吉さんだった。有島謝恩会の重鎮のおひとりとお見受けした満吉さんは、場の雰囲気一人で盛り上げるように、くったくなく豪快に飲みかつ笑いながら、周囲に話題を広げていた。その後も、毎年草刈りには参加しているが、残念ながら一緒に飲んで泊めていただく機会にはまだ恵まれていない。

今年の1月、有島謝恩会の飯塚健造さんのお話をお聞きした折（【この人に聞く2】参照）、飯塚さんから「亀田さんなら、自分よりもっといろんなこと知っているかもしれない」とお聞きしていたので、有島記念館の伊藤大介学芸員と、「いつか伺って話を聞こう」と計画していた。今年の灌漑溝泥上げ作業の打ち上げの時、満吉さんに頼んでみた。「たいして知ってることないけど、それでも良かったら、いつでもいいよ」とのこと。そしてようやくその機会が訪れ、7月18日、伊藤さんと私、それに、有島武郎に深い関心を寄せている行方洋子さん（蘭越町在住）の3人で、ご自宅にお邪魔した。

亀田満吉さんのお宅は、「有島三」と言われる地区にある。有島地区の自治振興会は、有島、有島一、有島二、有島三、の四つの地区で構成されている。その中の「有島」は「ただの有島」と呼称され、有島記念館や謝恩会館を中心とした地区である。有島農場時代には、農場事務所や吉川銀之丞の家もあった地区で、いわば、有島地区の中心地である。亀田満吉さんのお宅は、そこからずっと離れた「有島三」に位置し、近年移住して来られた方も多く住んで居る地区である。この四つの自治振興会とは別に、その全域にまたがる組織として「有島謝恩会」がある。大正11年に有島武郎が農場を無償解放して以来ずっと農場経営を担って来た「狩太共生農団」が、昭和24年、当時のGHQの指示によって解散を余儀なくされた時に、共生農団を担って来た農家の人達が、有島武郎への感謝の念を引き継ごうと自らを再組織化したのが「有島謝恩会」である。その後、有島謝恩会を構成している農家の高齢化や離農が進み、今では、現役の農家数は五軒にも満たず、農業後継者のいる農家は一軒もないという。ところが最近、そのような背景から会員の減少傾向にあった謝恩会に、有島地区に移住して来た若い世代の方々が加入するようになり、謝恩会の年中行事である有島灌漑溝の泥上げや草刈り、弥照神社の秋まつりの運営にも、多くの若い世代が参加するようになってきた。有島地区の新たな時代が始まっているのである。そんな話もお聞きできそうだと期待しながら、満吉さん宅訪問である。納屋の壁面にディスプレイされた古い農機具や生活道具のアートが、私たちを迎えてくれた。

おやじは、有島さんをたいそう尊敬していたようだった

—満吉さんのご先祖さんのこと、教えてもらえますか？

わしは、昭和9年生れで今年80歳になったんだが、5歳の時にここ亀田家に養子にきたんだ。今住んで居るこの家だよ。宮田の都築という家が、わしのもともとの実家なんだ。わしは11人兄弟の三男坊だったので、養子に出されたんだ。養父は貞勝。この人は、亀田家の二代目にあたる人で、有島さんにずっと恩義を感じておったようだ。毎年、里見淳とか有島武郎の長男の森雅之さんとか有島暁子さんとか、有島さんの関係者にジャガイモなんかを送っていたようなんだけど、自分とこで

は作っていないので毎年買って送っていたんだな。向こうでは、作っているものを送ってくれたんだろうって思っていたらしい。それで毎年負担が嵩んでいたのを、当時澱粉工場なんかを運営していた笠木さんが気の毒に思って、おやじに、そろそろ送るのを止めたらどうだって言ったようなんだな。そんなこともあって、昭和40年代になった頃だと思うけど、送るのを止めたらいい。義理堅い人だったんだよ。

—亀田久次郎さん、というの？

その名前は聞いたことないなあ。わしの養父は貞勝で、その親、わしの爺さんにあたる人は、惣兵衛という人だった。有島さんが農場を解放した時の人で、亀田家がある有島に入植して来た初代だよ。その息子が3人いて、長男はその後市街地で呉服店を開いた貞次郎、次男が貞勝でわしの養父、三男が留夫で農業、四男が久夫で北電に勤めたんだ。爺さんの惣兵衛は、最初有島に入植したときは農業だけでなく樵もしていたらしい。鋸の目立てがとても上手だったって聞いたことある。この有島って所は、粘土質の土地で、畑にしても石が多いし、なかなか農地には大変な所なんだ。ただの有島や有島一はまだ良い方だけど、ここ有島三は条件が悪いところさ。だから、土地は5町歩程あったけど、農業だけでやっていくのは大変で、わしだって若い頃から日雇いに出て、うちのオッカアがもっぱら畑仕事をして、収穫とか人手が大変な時にわしも仕事を休んで手伝うようなやりかたで、これまでやってきたんだ。だから、5町歩くらいの自分の土地も、自分で全部使っているんじゃないって、人にも貸している。今は、水田が1町5反程度で、あとは、ビート、スイートコーン、小豆等かなあ。不耕作地もあって、全部は使っていないよ。おやじの貞勝も、冬は内地などに出稼ぎに行って、春家に帰ってくる、という生活だったな。代々そうなんだよ。決して金が全く無いという訳ではなかったけど、大きく儲けることはできない土地だよ。だから、農地の拡大意欲もあまり湧かないところだな、ここは。

そう言えば、家系図なんかの資料がどこかにあった筈だな。

満吉さんがそう言って、資料を探すために席を立った間に、居間に掛かっている古い柱時計が私たちの眼に留まった。

—あれは、ずいぶん古い時計ですね・・えーっと、「昭和34年、狩太町議会議員改選記念」ですか？
ってことは、貞勝さん、議会議員してたんですか？

中座している満吉さんに代わって、奥さんのトミ子さんが答えてくれた。

そう、何でも頼まれたら断れない人でね、公職いっぱいやってたんだよ。そんなんで、議員もね。本当に、有島さんのことになると一生懸命な人だった。ただ、体は余り丈夫でなくてね、それで戦争にも行ってないんだ。出面取りをしながら、牛を飼っていたんだよ。

—奥さんは、出身はどこなんですか？

私の実家は、有島第二農場なの。昔は佐村農場って言ってたけど、豊里にあってね。そこで生まれて、ここに嫁いで53年。私の実家は7人兄弟で、私は3番目。小学生の頃は、元町を歩いて近藤小学校に通っていたよ。小学1年生の時に、敗戦を迎えたのさ。それまでの戦争の間は、毎日近くに防空壕を掘る作業ばかりでさ、穴掘るのだったら、ねずみよりうまくなったよ（笑）。B29も来たんだけど、爆弾は落としていかなかったね。こんな田舎で爆撃するところもないから、爆弾がもったいなかったんだろうね（笑）。その頃の食べ物、かい？大豆が多かったね。実家のある第二農場は、農家が16軒程あって、水田作っている農家は少なかったけど、うちは1町歩程作ってた。でもね、戦時中はさ、米を作っても、みんな国にとられちゃうんだよ。兵隊さんに食べさせるからっ

て言ってさ。ひどいよね。でも、その頃はそうだったんだ。第二農場から第一農場に嫁いできたら、第一の方が第二よりは少し豊かなところだってわかったね。

—第二農場からだ、新沼さんの奥さんと同じだね。

だって、私ら姉妹なんだよ。新沼に嫁いだのは、私の5歳年下の妹。

鈴木貞次郎さんのこと

戻ってきた満吉さんが、家系図を見せてくれた。亀田家の家系図だけでなく、都築家のものもある。

—惣兵衛さんのお名前は、弥照神社の中の名札（※大正5年）にもあったし、高山亮二さんの本にも出てくるけど、有島農場が始まる頃の早い時期からの人のようですね。この家系図で、満吉さんの生家について、少し教えてくださいませんか？

宮田の実家、都築家のキクミという人がわしの生母。キクミは、今の三国さんところに住んでいた鈴木貞次郎という人の長女で、後に宮田の都築家に嫁いで、わしを生んだのだよ。すこしややこしいけど、家系図を後でじっくり見てくれれば、わかると思う。この鈴木貞次郎さんの息子に貞雄さんという人がいて、この貞雄さんは有島で農業やっていたんだけど、割と早い時期に有島を出て、栃木かどこかで事業をしていたらしい。有島を出てからは一度も帰って来なかったけど、有馬武郎のことに興味を持っていて、いろんなことを調べていたようだった。そんなことも含めて貞雄さんがいろいろ書いた資料も、この中にあるよ。

中谷宇吉郎が住んでいたところ

—中谷宇吉郎が有島に住んでいたって話を聞いたことあるんですけど、どうなんでしょう？

ああ、そうだよ。いまの三国さんところの前。それまで、わしの叔父さんにあたる鈴木貞雄さんが住んでいたところを、貞雄さんから中谷先生が買取って、別荘のような家を建ててご家族で住んでいたんだ。その頃は庭に桜の木があったけど、今はどうかな。礎石なんかも残っているのかどうかなんだか。中谷先生のところには息子もいて、わしも一緒に学校に行ったよ。長女はわしと同じ歳で、息子はわしより3つか4つ歳下だったかな。残念ながら、わしは中谷宇吉郎に直接会った記憶はないんだ。

中谷宇吉郎って先生は、雪の結晶の研究で有名で、戦時中はアンヌプリの山頂に零戦を上げて研究していたらしいけど、戦争が終わってそんなものを処分した後は、農業経済研究所のようなことをしていたんだ。有島とか曾我とかにビニールハウスや小屋を建てて、農作物の防疫のようなことを研究していたらしい。蘭越とか真狩、留寿都なんかにも研究所があったと聞いたことあるよ。ある時なんか、春の融雪を早めるための実験といって、山の土をたくさんの一号箱に入れて畑に運んで山のように積み上げ、そこにダイナマイトを仕掛けて土を周囲に吹き飛ばすような実験をしたことがある。ちょうど今の三国さんところ、ビニールハウスが建っている辺りだったな。その爆発実験は、わしも一回見たことがある。でも、その実験はその後続いていたような記憶がないから、うまくいかなかったのかな。でも、なにせ、すごい先生だったよ。有島さんもすごい人だったけど、中谷宇吉郎もすごい人だったのだから、有島記念館でもっと展示すべきじゃないかって思うね。

中谷宇吉郎の関係で思い出すけど、研究所では、その頃この辺りではまだ珍しいトラックを持っていたんだ。農閑期になると、研究所でトラックを出してくれて、農家みんながトラックの荷台に乗って、洞爺湖温泉の万世閣まで遊びに行くんだ。今でも思い出すけど、三国の爺さんが上半身裸で荷台に乗って、「エヘン」と咳払いなんかして、それはもうみんなうれしそうだったよ。研究所の仲元さんって人が運転してたね。

中谷先生とどんな関係になるのかわからないけど、弥照神社の前に、井上教授という人が住んでいた時期もあったなあ。今の木下さんが住んでいる附近だよ。ボタンの沢山ついた服を着て、とても立派な風に見える人だったね。そのころ、解放記念碑の辺りの道路は、今と線形がだいぶ違っていたんだ。

そうそう、中谷宇吉郎のことだったら、白樺団地に住んでいる後藤先生が詳しいよ。後藤さんは、わしと同じくらいの年齢かな。学校の先生をした人で、中谷宇吉郎のことは随分調べていたようだった。以前、後藤さんがわしに中谷宇吉郎の本を貸してくれたことあったんだけど、わしは本を読むのが苦手だから、余り読まないで返してしまったんだ。後藤さんにぜひ会ってみた方がいいよ。もっといろんなことがわかると思うな。

農場事務所跡地の顛末

—農場事務所の跡地って、今は誰の土地なのか、ご存知ですか？

ああ、あの土地は、わしの父親貞勝が買った土地なんだ。その時には、まだ事務所（※兼記念館）の建物があったんだけど、火事で焼けちゃったんだよ（※昭和32年）。何でも、その建物に住んでいた高校の遊佐先生が、離れたところで豚のえさを煮炊きしていたときにその火が燃え移ったというんだけど、どうだったんだろうね。消防が駆けつけたけど、放水ホースの先の器具を忘れたといっ取りに戻っているうちに消失したしまったというんだから、情けない話さ。ふだんあまり訓練していなかったんだろうかね。かく言うわしらも、火事だっていうんで駆けつけたんだけど、あわてて走って行ったから、バケツもなんも持たなくて役立たずさ。むしろ子どもたちの方が、それっぽかりにバケツを持っていったんだから、学校で訓練受けていたんだらうな。

そんなこともあって、その後、焼けた建物は有島記念館として別の場所に再建されて、もとのおやじの買った土地にはなにも残らなかったけど、しばらくそのまま持っていたんだ。おやじ貞勝は、冬は出稼ぎで妹の住んでいた東京方面によく行っていたので、そのうちにその妹にその土地を譲渡したんだね。おやじは昭和50年に亡くなるんだけど、その2、3年前に、妹に譲った筈だ。おやじの妹って、鈴木モヨっていうんだけど、今は、モヨの娘の名義になっているんじゃないかな。

ニセコ町でも、その土地は、有島農場の事務所だったところなので欲しいと思っていたようで、親父が亡くなってしばらくしてから遠藤町長がわしのところに来て、その土地を譲ってもらえないかと相談を持ちかけてきたんだ。それでわしは、「東京の妹に電話で伝えておくので、直接交渉して欲しい」と町長に伝えたもんさ。ところが、町長は上京した時にモヨに会ったらしいんだけど、話が進展したということはその後も何も聞いていないんだ。結局、不調に終わったんだらうな。その後、町では、新しい記念館を今の場所に建てたという経緯があったんだよ。

子供時代の悔しい思い出

—先ほど、奥さんの子供の頃の話をお聞きできたのだけど、満吉さんの子供時代って、どんな遊びをしてたんですか。

そうだなあ。家の周りの田んぼの畦道を、毎日走り回っていたなあ。だから、わしが走る畦道には雑草が生える暇がないって、よく周りからからかわれたっけ。あとは、庭先でサクランボや桃の実を食べたり、近くの山に行って、ぶどうとかこくわなんかを採ったりしたな。学校に行く途中にある吉川銀之丞さんの家の前にはぶどうが実っていて、まだ酸っぱいうちからこっそり失敬して食べ

たりしたんだけど、酸っぱいから菊地さんのばあちゃんに「転んで擦りむいたから塩ください」とか嘘言っただけで塩貰ってぶどうに付けて、甘くして食べたんだな。よその畑、って言ったら、お腹がすいたときは、よその畑の大根を抜いて食べたり、だいたい良くない遊びが多かったな。でも、その頃は、みんなそうだったんだ。だから、よく行く畑の農家からは、「こらー！また来たか！」って、よく怒鳴られて、逃げ足もどんどん速くなったよ。

わしは5歳で亀田に養子に入ったけど、その頃から酒を飲んでたよ。当時は、どぶろくの時代で、大人は、自家で作ったどぶろくを子供にも飲ませてくれたんだ。あるとき、タコの刺身でどぶろくを飲み過ぎて、学校を2日間も休んだことがあったよ。4、5年生のときだったかな。そんな調子だから、学校でも、随分友達同士でいたずらもした。

戦時中の頃だったと思うけど、小学校の教室で行われていた青年学校で、ベルトが紛失する事件があったんだ。そしたら、何の理由もないのに、わしに疑いがかけられて、今でも覚えているけど、担任の飯田先生という人に物凄く殴られたことがあった。この先生は、どういう訳か、わしを目の敵にしていたようで、本当に良く殴られたんだ。わしだけではなかったけど、特にわしは何かと言って難癖付けられた。4年か5年生の時、悪ガキみんなで服部さんとその地蔵さんに石を投げて遊んでたんだ。で、わしが投げる番になったら、投げる前に地蔵さんの頭がポトッと落ちて、たまたまそのことを聞いた先生が、犯人はわしだと決めつけてまた殴るんだ。いつだったか、小学校の裏の水田でみんなが作業する時、先生が、「亀田、お前は行かんでもいい。教室に残れ」と言われて、教室で3人もの先生から椅子を振り上げて殴られたことがあった。さすがに殺されるかと思っただけで、たまたま通りかかった一級下の安孫子誠可くんが、余りのすごさに、見て見ぬ振りしてその場を逃去ったくらいだったんだ。わしも親にそのことを話したんだけど、おやじは、どういう訳か、学校には何も言わなかったようだ。

—そんな酷いことされて、悔しかった！？悔しかったでしょう！！

悔しいというより、腹が立ってどうしようもなかったな。今でも思い出すと、本当に腹が立つし、情けない気持ちだ。その先生も、思うようにいかないことがあったのかもしれない、気の毒に思うこともあるけど、優しい先生もいたんだから、あの先生には本当に怒りで一杯だよ。うちのオッカアにこの話をしたときは「私がその先生をやっつけてやる！」って、たいそうな剣幕だった。わしと違って、気が強いからな。時々、わしもけんか売られることがあるくらいだよ。（笑）

満吉さんにとって、どんなに辛い記憶として心の中に存在し続けてきたのか、私たちにとっても、衝撃的だった。後日、行方さんからこのときの印象を聞いたが、「いたたまれない気持ちで、自分でも気持ちが高揚して知らないうちに質問を発していた」程の出来事だった。満吉さんは、行方さんの食入るような質問に、感情の昂る自分を抑えるように答えながら、ようやくいつもの冗談を飛ばす豪快な満吉さんを取り戻したようだった。一息ついてそのあと、古い写真を私たち眼の前に広げながら、ひとつひとつ丁寧に説明してくれた。馬小屋やサイロが写っている自宅の写真、屋根が桁葎きであることも、眼を引いた。鞍馬、学生の援農風景、小学生が田んぼで田植えしている写真もあった。その写真を見て、ふと疑問が去来したので、聞いてみた。

—有島灌漑溝はニセコ小学校の近くまでのびていますけど、それは、小学校の水田のために引いたんですか？

それもあったと思う。その辺まで、有島農場だったからね。

有島のひとびと

—戦後の有島って、出て行った人はかなり多いんですか？

出て行った人は多いけど、入ってきた人も多いよ。有島三のこの辺りは、14軒程あったけど、ここから出て行った人はかなりいるなあ。そのあと、若い人達が随分入ってくるようになったから、様子はずいぶん変わって来たよ。三国さんとこの附近も出入りの多い場所だよ。以前からずっといる人って、もうそんなにいないな。わしんところは、爺さんの総兵衛さんの代からここなので、この辺りじゃ古い方さ。この家は、惣兵衛さんの時からの家だけど、わしが自分で手を入れたんだ。わしは何でも捨てるのが嫌いな性分で、この家の古い材をそのまま使って手を入れたのさ。納屋の壁にいろんなものを飾ってあるけど、古い農機具とかスキとか、周りの人が古くなって使わなくなると持ってくるんだ。捨てる訳にもいかなくて仕方ないので、あんな風に飾って遊んでいるのさ。たまに、それを見てこれが欲しい、って言うてくる人もいるよ。

—前の飯田館長とのおつきあいて、どんな具合だったんですか？

あの人が、わしのところに話を聞きにきたことはないよ。いい人だったけど、あまり付き合いはなかったな。そう言えば、以前、わしが弥照神社の周りの木を、風で倒壊して神社を傷つけても困るから切ろうとしたことがあって、そのとき、飯田館長が、神社の木は切るもんじゃないと言って反対したんだ。枝払いをすればすむ、と言ってさ。ところが、枝払いするにも木の背が高くて、業者でもできないことがわかって、館長もしぶしぶ承知して結局切ったんだ。その時、神社の境内に咲いていた花を見て、飯田さんはきれいだと言って写真撮ったりしていたけど、そのあとで、わしは除草剤を撒いて境内をきれいにしてしまったよ。地鎮碑の周りにも除草剤を撒いた。

わしは、自分の考えで良いと思うことはどんどんしてきたけど、違う考えの人だっている。取水口ところの水神さんの碑は、一度倒壊したことがあって、謝恩会で修復したんだけど、そのあとで、石碑に刻まれた文字に沿って赤いペンキを塗ったんだ。文字が読みやすくなるようにと思ってさ。それで、この間、共生農団入口の碑の文字も見えやすくなるようにペンキを塗ろうとしたら、向さんが反対したんだ。解放記念碑の文字だってペンキで読みやすくしようと思ったら、それも反対する人がいた。読みやすくなるんだから良いと思うけどな。

—満吉さん、それは、ぼくだって反対しますよ。読もうとすればちゃんと読めるし、これまで通りの方がいいですよ。

そうかね。あんたも反対か。そんなもんかなあ。まあ、反対する人がいたら、無理にはできんしな。それは仕方ないんだけど、中には、口ばかりで自分では何にもしない人もいるからな。宮山の雑木を切って桜を植えようという話の時だって、木を切るのには反対という人もいたんだ。でも、切りっぱなしにするんじゃないくて、切ったあとで桜を植えるんだからというんで、了解が得られたのさ。桜の植樹を進めていた「ニセコをこよなく愛する会」の中島会長は、宮山の地権者11人を個別に全部回って、理解を得てハンコをついてもらったんだ。えらいと思うよ。地権者は誰かって？確か全員有島の人だったと思うな。あそこは、小山の頂上から放射状に分筆されているんだ。分筆されたのが戦後の農地解放の時かどうかは、わからんけどな。有島の中で欲しいという人に分けたんじゃないかな。

有島灌漑溝の維持活動について

—満吉さんは、有島全体のことでずいぶんボランティア活動をなさっていますね。

今年80になってみると、去年までと比べて体の疲れ方が全然違う。こんなに違うものかと、自分でもびっくりしている。去年までは、宮山の草刈りを年何回か、朝5時から1時間程ほどやってきた。除草剤も使ったけどね。でも、今年は、草刈りが全くできていないんだよ。だから、今どうなっているんだか。宮山の千本桜は、ニセコをこよなく愛する会が進めてきた事業で、最初は100本ずつ5年間植えようという計画だったんだけど、あつという間にスポンサーがついて千本になっちゃった。謝恩会はこよなく愛する会には入っていないけど、地元だからね、いろんな形でサポートして

いるのさ。わしの草刈りもそのつもりだし、宮山の散策路だって、最初わしが2本道を付けたんだ。そしたら、中島さんから、もっと違う形で付けたいという話があって、そんな風に付け替えたりもした。だから、これまではまあまあ良かったんだ。問題は、わしが歳をとって草刈りができないことになって、誰がするのかということなのさ。今年は、こよなく愛する会の中島会長が草を刈ってくれているようだけど、毎年何回かしなくてはいけないからね。結局、良い環境を維持するという事は、誰かが汗水流して苦労することなんだ。草刈りだけじゃないよ。秋には桜の木の雪囲いがあるし、春にはその雪囲いを取る作業もある。雪囲いのくい抜きにヒルトンの職員がボランティアで手伝ってくれたけど、草刈りまではできないようだし。宮山だけじゃないんだ。宮山の桜が見えるように、その手前のイタドリの藪も刈らないといけない。それらみんな、わしができなくなって、今後どうするのかな。

—この間、有島灌漑溝の取水口までのコースを歩いてみましたが、あの道路の草刈りも、満吉さんですか？

その灌漑溝は、有島三の人たちで草刈りやっているよ。高橋さん、桐山さん、杉村さん、高野さん、他にもいろいろ参加してくれる。わしは、最近移住してきた人たちによく言うんだ。灌漑溝と何の関係もない生活をしているように思うかもしれないが、家庭排水とか浄化槽からの排水は、分派線から水利組合の土管を経由して結局は灌漑溝に関連しているのだから、否応なく灌漑溝とは関係がある暮らしなんだよ、だから、可能な限り、草刈りには手伝って欲しい、ってね。だんだんみんな理解してくれて、草刈りに参加する人も増えてきた。ああ、わかってくれてるんだな、って思うよ。でも、取水口までの道路は、みんなで灌漑溝を草刈りをする前に、わしが草刈りをしているんだ。謝恩会ではそこまでできないからね。だけど、距離もあるし、一人で草刈りたって追いつかないよ。だから、除草剤を使っている。灌漑溝にはかからないように注意している。水質のこともあるけど、灌漑溝の側面の草を枯らしちゃうと、側面の土止めが弱くなって崩れてくるしね。だから、側面が弱そうな場所には、補強材なんかを埋め込んだりしているんだよ。そんな苦労、もうわし一人では、この先できないからさ。どうしたらいいもんかね。

—そんな有島灌漑溝に関心を持って、一度現場を見たいという人もいます。灌漑溝の維持については、何か良い方法が見付られるといいですね。

時々、何人かで灌漑溝を見にきて写真を撮ったり、子どもたちが自転車で取水口までの径を走ったりしているよ。灌漑溝に関心を持ってもらえるのは、うれしいな。

予想以上の発見があった亀田満吉さんのお話。今回お聞きできた内容は、まだまだ奥行きが深い全貌のほんの糸口だったような気がする。お借りした資料からも、さまざまな事実や、さらに意外な発見がありそうだ。このヒアリング記録をまとめながら、お借りした資料を読み込んだり、関連する方々への追加のヒアリング等、そしてもちろん満吉さんのお話をさらに聞かせていただくことや、トミ子さんのお話の奥行きにも、さらに関心が広がっている。

今回の記録を一層深めるような、新たな記録を追加作成したいと思っています。ご期待いただければ、励みにもなります。

2014年8月19日 23:18

この人に聞く 4 :

【亀田満吉さん、トミ子さんご夫妻（ニセコ町有島在住）／2回目（H29.1.16）】

聞き手：梅田滋、井上剛、葛西奈津子

前回お伺いしてから2年半程経って、亀田満吉さんのお宅を再び訪問した。前回のお話に引き続いて、もう少し具体的にお聞きしたいことや、新たにお聞きしたい話題があったからである。

今回は、土香る会の聞き書き活動の一環として、事務局の梅田と井上剛さん、そして、萬吉さんと同じ町内会に住んでおられる土香る会会員の葛西奈津子さんの3人で伺った。

この2年半程の間にも、満吉さんとは、有島謝恩会の有島灌漑溝の泥上げや草刈り、弥照神社の春と秋の例大祭などでお会いしてはいるが、改めてじっくりとお話を伺うのは久しぶりであった。トミ子さんも相変わらずお元気で、話題によってはトミ子さんからも多くのお話をお聞きできた。

1. 有島農場事務所跡地について

—前回のお話で、有島農場事務所跡の土地を、一時、お父さんの貞勝さんが所有しておられたということですが、その前後の経緯はどういうことだったのですか？

あの場所は、農場事務所がまだ建っていた頃に、その土地をわしの父親の貞勝が買ったんだけど、誰から買ったのか、よくわからないんだ。あの場所は、吉川銀之丞さんが住んでいたところだから、吉川さんから買ったのかなあとは思うけど、いつ、誰から買ったか、はっきりしたことは親父から聞いていないんだよ。親父は、有島さんをずいぶん尊敬していたから、それでその土地を買ったのかなあと思うけど、そのうちに、親父の妹で東京に住んでいたモヨさんに譲ったんだ。30万円だったように聞いているなあ。モヨさん以外に山森さんにも、一部を売ったんだと思う。モヨさんの娘が相続したその土地は、亀田禮子がずっと管理してくれていたんだ。

ところが、ある時、遠藤町長からわしに電話があって、有島農場事務所を復元したいので、あの土地を町に売ってくれないか、という相談があったのさ。しかし、あの土地はわしのものではないから、東京のモヨさんにこの話を伝えたんだ。それで、とにかく、遠藤町長が上京してモヨさんに直接相談することになったのだけど、その結果がどうなったのか、わしは聞いていないんだ。事務所の復元は出来ていないから、相談は不調に終わったのかな、と思っているよ。

—農場事務所が火事で焼けた話は、前回お聞きしました。それは、初代の謝恩会館兼有島記念館だったということでしたね。その後、謝恩会館というか有島記念館というか、焼けた後は、どのよう

に移り変わって今に至っているんですか？

最初の事務所が焼けた後、その前の道路を挟んで向いに、二代目の有島謝恩会館が建てられたんだ。その時の道路は今とは線形が違って、農場事務所の直ぐ前を通っていた。その道路の向いに、二階建ての謝恩会館が建ったんだ。

—確か写真に残っていますよね。一階がレンガづくりで二階が木造の建物。

そうだ。その二階建ての会館の二階部分が、有島記念館になって、火事で一度は避難したいろんな資料なんかを、展示したんだ。その後、町が道路の拡張工事をするようになって、すぐそばだけど、また移したんだよ。その時、一階部分を無くして二階部分だけを降ろして、今の謝恩会館の形にした。この時、有島記念館を今の形で町が建てたので、有島さんの資料は全てそっちに移して、謝恩会館に資料をおく必要がなくなったから、二階建ての必要がなくなったんだと思うよ。

—三代目謝恩会館、ですね。この話は、初めて聞きました。二階部分を降ろした時に、いきなり今の場所に移したのかなと思っていました。

いや、そうじゃないんだ。まあ、三代目といっても、建物は一部そのまま利用したから、二代目と同じだけだな。その後、さらに、それをそのまま今の場所に移したのさ。

—ということは、建物自体や建っている場所を合わせて考えると、最初の農場事務所から今の謝恩会館まで、4カ所を転々としてきた、ということになりますね。これは、初めて知りました。

そう言えば、この場所に、灌漑溝の分派線があったな。カシュンベツ川から引いて生活の家裏手の本線に流していたと思う。ここに菊地さんの水田があったので、それに引いていたと思うけど、その土地を町に売ってそこに有島記念館が建ったから、その分派線はもう埋まってしまったけどな。

—それも、初耳です。灌漑溝の分派線はあちこちで使われなくなって埋まってしまったものがあるだろうから、もう記憶の中でしかわからないんでしょうね。記念館に、灌漑溝を作ったときの設計図の青焼き図面があるそうなので、それには載ってるかもしれないけど。

2. 小学校で先生にいじめられたこと

—前回のお話の中で、萬吉さんが小学生の時、学校の先生に酷く殴られたことがあったという体験がありましたね。とても強い印象が残っているのですが、もう少し詳しくお聞きできますか？

あれは、わしが小学3年生か4年生の頃だったと思う。6年生の時に終戦を迎えているから、まだ戦時中のころだったな。わしがある人のベルトを盗んだと嫌疑がかけられて、担任の飯田先生だけでなく、伊藤先生も島田先生も一緒になってわしを殴り続けたんだ。今でも、思い出すと腹が立つ。

—地藏さん事件も、殴られた原因の一つですか？

小学校のそばの大円寺の墓地にあった地藏さんは、わしら子どもたちの遊び相手だった。学校帰りに、仲間と一緒に、よく地藏さんの頭に石をぶつけて遊んだけど、住職の服部清さんはそんなことをわかっていても、何も怒らなかった。

(トミ子さん) だって、地藏さんっていうのは、子供に遊ばせるための地藏さんなんだから、それでいんだよ。石をぶつけたからって、なんも悪いことない。

だけど、そのことを知った学校の先生は、酷く怒って、わしが一番目の敵にされて、殴られた勢い

でストーブのところまで吹っ飛ばされたことがあった。通りがかって廊下から見ていた安孫子くんも、あまりの凄さに怖くなって逃げるように其処からいなくなったほどだよ。帰ってきてから親父の貞勝に言ったら、次の日、抗議する為に学校に行ったけど、その後も、先生には殴られ続けたよ。何故、あんなにわしらこどもを殴ったのか、今でも解らない。

—萬吉さんは、ほぼ同年代と思うけど、有島部落にいた阿部信一さんを知っていますか。私は最近知ったのだけど、安倍信一さんは農家を継がないで学校の先生になったんですよね。その頃から小説も書いていて、『屠殺』という小説の中で、主人公の小学生が、地蔵さんに悪戯をしたという理由で学校の先生にすごく殴られる場面が出てくるんです。それで、すぐ萬吉さんの体験を思い出して、何処かで関係があるのだろうか、と疑問に思ったので、今日、お聞きしてみたんです。

しんちゃん（安倍信一（のぶいち）さん）は、わしの1級上の先輩だよ。体格のいい人だった。その小説のことは知らないけど、しんちゃんも先生に殴られていたのかい？それは、知らなかったな。彼とは地蔵さんと一緒に遊んだことはなかったけど、地蔵さんに悪戯したのはわしらの学年だけではなかったと思うから、しんちゃんたちもそうだったんだろうな。だから、地蔵さんと遊んで殴られたのは、他にもたくさんいた筈だ。とにかく、子どもたちにはひどい仕打ちをする先生が多かった。石川先生なんか、わしの担任ではなかったけど、冬の寒い時に子どもたちを裸にして校庭を走らせたりしたんだ。みんなそれを見て、ひどい！って、怒ったもんだった。しんちゃんとは、有島部落から隣の羊蹄部落の小林農場に移ったけど、長男が農家を継いで、しんちゃんは学校卒業してからすぐ働きに出て、農業はしなかった筈だよ。へえ～、今は札幌にいるのかい。わしの一つ年上だから、85歳だな。

—この間萬吉さんから頂いたいろいろな資料を読んでたら、鈴木貞雄さんが書いた文章の中に、萬吉さんが小学生の頃、登校拒否してた時があって、その時は鈴木貞雄さんの家に暫く居たことがあると書いてあったけど、そうだったんですか？それも、先生にいじめられたことと関係があったのですか？

ああ、どうだろう。思い出せないけど、貞雄さんがそう書いているなら、そうだったのかもしれない。だけど、先生にいじめられたからじゃないと思う。だって、学校には、酷い先生ばかりじゃなくて、いい先生もいたんだ。子供を褒めて、やる気を引出して子供の力を伸ばす先生もいたんだ。

—遊んだ地蔵さんって、今でも、大円寺の何処かに残っていますかね？

いや、大円寺の前の道路を変える工事があった時に、墓地も場所が変わって、地蔵さんはいなくなっちゃったよ。

3. 青年団の演芸会で活躍したこと

—土香る会の会員で放送作家の菊地寛さんという方が、むかし、有島部落で青年団が演劇活動をしていた時代があったら、そのお話を聞きたいとおっしゃっていますが、どうだったんですか？

演劇活動は、一頃ずいぶん派手にやってたよ。有島部落の青年団が主催して、弥照神社のお祭りの時には、神社の前に舞台を作って、ずいぶん前から準備したり、練習した出し物を演じて、部落の人が大勢見に来たんだ。劇だけじゃなくていろんな出し物が出たよ。楽しいものがそんなになかったから、部落の人は勿論のこと、町からも他の部落からも見に来て、出店が2、3軒も並んだな。わしも、主役をやったことがあった。20代とか30代のときだけだな。有島だけじゃなかったんだ。他の部落の青年団もやってたから、全町で演劇のコンクールをしたことがあって、有島部落の青年団が優勝したこともあったんだ。わしが若かったときが全盛期だったなあ。その後、テレビが各世帯に入ってから、すっかり廃れてしまった。そう言えば、その頃の遊びで思い出すけど、王子発電所の中古トラックを部落で安く買って、みんな

なで荷台に乗って、あちこちに遊びに行ったなあ。あの頃は、楽しかった・・・。

—今年、菊地さんもそんなお話を聞きにくると思いますから、そのときは、よろしくお願いします。

4. 共同墓地のこと

—去年、北大の先生や学生さんたちも一緒に、萬吉さんに案内されて、共同墓地に行きましたね。『カインの末裔』にも登場する共同墓地ですけど、あそこは、もう部落の人も利用していないんですか？

以前は、亀田家の墓もあったんだ。惣兵衛さんと貞勝二代の墓があって、その頃は、時々お墓の清掃に行っていた。墓地は町有地で町が全体の管理をしていて、以前はたくさんのお墓があったけど、だんだんお墓が其処から他に移って行って、今では少ししか残っていない。古川さんや菅原さんなど3つくらいじゃないかな。亀田家の墓も、共同墓地から移して今はセイコーマート向かいの大仙寺の納骨堂に納まっているんだ。

共同墓地は土葬の時代からだから、土饅頭の状態からだんだん窪んで、墓石が無くても何となく埋葬されている場所が分かるような状態になっているけど、誰のお墓か解らないよね。そんな状態が、ずっと奥の方まで続いているんだ。

この間みんなで行ったときも掘ってみたけど、白骨は出なかったね。以前、墓地近くの整地をする為にブルが入った時、白骨が出たんだ。共同墓地から少しズレたところだった。それを見て、わたしは、昭和13年から15年くらいの、ひらふ発電所建設時の労働者を埋葬したときのものじゃないかなと想像したけど、昔は、タコも使われていたというから、その可能性が十分あると思うんだよ。いつだったか、町長にそのことを伝えて、慰霊したらどうかって言ってみただけど、さっぱりその気はないみたいだったな。

—萬吉さん、いろんなお話をありがとうございました。今度は、トミ子さんのお話をお聞きしたいと思います。その時はまた、よろしくお願いします。

(文責：梅田)